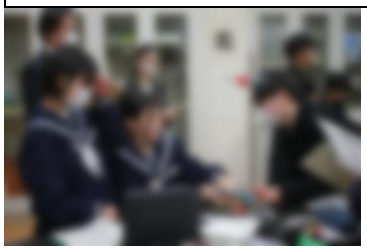
自尊と敬虔

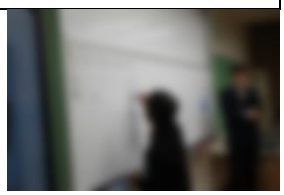
和木中学校だより　第２５４５号

令和７年２月４日（火）

〒740-0061　和木町和木２丁目５番２号
TEL 52-4328　FAX 52-5265
和木中Webページ　http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~waki-jhs/



そこに *poem* はあるんか？



校長　鬼武伸哉

１月２０日（月）に**「学び合い」**研修を実施しました。２年２組の生徒を対象に、**「電磁誘導」**を題材にした理科の授業を全教職員で参観し、研究協議の視点を定めて話し合いました。その後、岡山大学教育学研究科の佐藤暁教授にご指導いただくことで研修を締めくくりました。協議の視点は**「子ども同士、子どもと資料、子どもと教師がどのようなつながり方をすると深い学び（新たな発見、思考の強化）につながるのか」**というものでしたが、２学期に指導案の検討をやはり全教職員でしたところ、**「電磁誘導」**という題材を基に作られた指導案を見て、多くの教員が子どもたち同士の**「学び合い」**が本当に成立するのかという懐疑的な意見を授業者にぶつけておりました。題材がもつ理系的な知識等の要素を理解することが難しくて、考えることをあきらめ、対話をすることに参加できない生徒が多いのではないか、あるいは、理解している友人や指導する教員の答えをただ待つ生徒が多いのではないかという意見が大半を占めたように覚えています。個人的には、自身を話し合いに駆り立てるには，その題材に**詩的要素**があるかどうかが重要なため、私も懐疑派の一員でした。数学科の教員には本当に失礼な書き方になりますが、中学生の頃、授業の題材が「台形の面積」の求め方だったり、「解の公式」の理解だったりすると、その時点で学習意欲が半減しておりました。授業に指導者の**愛**を感じることはあっても、**詩**を見い出すことは皆無に近かったからです。ある数学科の教員は私に次のように言いました。**「数学の問題をもっと身近で、面白いものにしてくれと要求するあなたのような人が多くなったため、解いたり、話し合ったりする問題の設定に工夫を凝らすあまり、問題そのものを理解することに時間や理解力を要することが多くなり、逆に付けたい力の育成を阻むことが多くなるという皮肉な事態が生じている。」**また、ある理科の教員は、「解の公式」に実生活における価値も魅力も感じないという私の発言を聞いて、「僕は解の公式をマスターした時に、公式に**ロマン**を感じた。」と生き生きと語りました。残念ながら、彼が自分に酔っているように語った**ロマン**がどのようなものかを理解することは私にはできません。冒頭で紹介した研修会の研究授業を振り返れば、佐藤教授からはいくつもの具体的なご指導をいただきましたが、全体的には私の予想に反して、子どもたちは**電磁誘導**で起こる現象を実験を通して解明しようと班員と協力しながら熱心に学習活動に取り組んでいましたし、代表の生徒がホワイトボードの前で説明した課題に対する答えとその説明についても多くの生徒が理解したように見えました。１月 26 日付けの朝日新聞に、第１７２回直木賞に『藍を継ぐ海』で選ばれた伊予原新さんが寄稿しておられました。伊予原さんはそのエッセーで、敬愛する進化生物学者リチャード・ドーキンスの著書『魂に息づく科学』から、次の一文を引用されています。**「悲しくなるほど多くの人々がいまだに、科学的説明は詩的感受性をむしばむという、信憑性のない決まり文句にだまされています。」**伊予原さんの生涯の目標は、多くの人々がだまされているその決まり文句を打ち砕くことだそうです。**〈科学ですが、絶対に面白いですよ〉**というメッセージを著書の帯に添えるという強い意志が伝わってきました。もちろん、「台形の面積」の求め方や「解の公式」が大切であることは、私にも理解することができます。数学が苦手な私が欲しているのは**〈「台形の面積」ですが、絶対に面白いですよ〉**という言葉や**〈「解の公式」のロマンを味わわせてあげましょう〉**という言葉です。私が英語の授業で、数学について面白く教えてくれと要求されたら、即座に断りますから身勝手なことは百も承知で願望を綴っております。

ここで、本県が誇る童謡詩人、金子みすゞさんの詩からご存知の方も多いと思いますが、**『蜂と神様』**を紹介します。（紙面の関係で、行を配慮しない紹介になります。）**『蜂と神様』　　金子みすゞ**

蜂はお花の中に、　お花はお庭の中に、　土塀は町の中に、　町は日本の中に、　日本は世界の中に、
世界は神様の中に。　そうして、そうして、神様は、　小っちゃな蜂の中に。

視点が身近なものからどんどん離れていき、宇宙船から見つめているような、哲学的な広い視野に入ったかと錯覚するような感覚に包まれたかと思えば、一気に原点に引き戻される素晴らしい詩だと思います。そうです。科学は小っちゃな「自分」の中にあると信じたいのです。保護者の皆様は、学習に愛だけでなく、**詩的要素**が必要だとは思われませんか。私には必要な問いかけです。　**「そこに *poem* はあるんか？」**

新年度に向けて　小中連携事業「授業体験」「部活動見学」「入学説明会」開催

１月２３日（木）には、和木小学校の６年生が数学と英語の授業体験をするために来校し、クラスごとに５、６校時の時間帯を使って教科の学習に取り組みました。６年生の目を輝かせて意欲的に活動する様子が印象に残っています。授業体験後は、本校３年生の誘導で部活動の様子を見学しました。入学説明会でも話しましたが、本校の部に入部するかどうか、入部する場合は何部にするかについて、４月までにじっくりと考えて決めてほしいと思います。１月２９日（水）には、本校体育館で６年生とその保護者を対象にして、「入学説明会」を開催しました。本校の学校生活について、生徒指導主任が説明し、その後、制服や体操服等の採寸がありました。和木小学校の６年生の児童数は７０名で、現在のところ、来年度の学級数及び生徒数は今年度と同じで、学級数は特別支援学級を含めて８学級、生徒数は１９１名を予定しています。

学校保健安全委員会を実施しました

１月２８日（火）の６校時に、多目的スペースで全校生徒を対象に学校保健安全委員会を開催しました。「睡眠」をテーマに、保健体育委員会が生徒に実施したアンケートの集計結果をもとに分かったことを発表し、今後の委員会活動で、メディアや睡眠チェック等、取り組んでいきたいことを紹介しました。その後、東洋羽毛の加藤尚道講師から、「睡眠について」という演題で講話をいただきました。保健体育委員会が実施したアンケート結果も活用され、必要な睡眠時間、睡眠の効果、メディア利用と睡眠のかかわり等について、とても分かりやすく具体的にご講話をいただきました。睡眠時間が短い傾向のある本校生徒にとって、とても意味のあることをご指導いただいたと感謝しております。

面接練習実施中！

第３学年の生徒にとって、進学先を決定する高等学校等の入学試験が続いています。１月３０日（木）には高水高等学校の一般入学試験が行われ、本校からは３０名の生徒が受験しました。そうした試験に備えた練習の一環で、日々、面接練習を３年生の担任や副担任の教員が試験官になり実施しています。１月２２日（水）には、地域の方や町教委の主事にご来校いただき、ご指導いただきました。お忙しい中、ご協力いただき、心から感謝しております。